

## 発表のまとめ・東予グループ長 政石信行

- 自身の木材に対する基礎知識の不足(樹種、含水率、ヤング率、強度、JAS材など)
- 無垢材について材料の強度、含水率、割れ等のばらつきがかなりあるということ。

□普段携わっている住宅設計、および施工の現場では木材の乾燥の有無、集成か無垢か、程度の知識量でどうにかなっている。

- ・この点に関してはプレカット業者および端柄材の納品業者(主に担当工務店および大工)に丸投げ状態で品質管理が行われている。

□中大規模建築の設計においてはこれでは知識量が足りない。

- ・また、構造計算についてもこちらの知識量を増やさなければ対応できない。
- ・材料選定から納材に対して設計サイドからどこまで指示できるか。
- ・それに対してどこまで許容するのか。(納材側、設計側、施工側の意識統一)
- ・いつ誰が計測するのか。どの時期か。現場納材後の管理の問題。

□中大規模の木造を行ううえでこの部分の意識統一、品質確保が大事になってくる。

☆トラスが出来るということ。

☆トラス加工の出来る職方の不足。プレカットの精度。

☆トラスでの長スパンが可能であることを生かした設計提案。プランニングへ。

☆最終的に実物件に落とし込めれば。

◎今回のトラスの設計、実験でトラスがより身近なものとして認識できるようになった。

- ・また、逆にトラスを採用する際の納期、設計期間、材料選定、価格といった部分の問題があることを、身を持って体験できたことが大きな財産となった。
- ・トラスはあくまでも技術であり、設計上の道具なのでこれを使って、中大規模建築だけでなく住宅においてもうまく長スパンに対応したプランニングや空間設計につなげたい。